

コミュニティ だより

徳島市コミュニティ会
徳島市幸町2丁目5番地
TEL (088) 621-5510
FAX (088) 621-5511

徳島市民総合防災訓練 「入田地区」実施

入田町まちづくり協議会 会長 坂東喜夫

七月三十一日(日)午前八時三十分から入田小・中学校で、地震災害を想定した市民参加型の防災訓練を実施しました。暑さの厳しいときであ



ロープ結索訓練

りましたが、町内会、自主防災会、幼稚園児、小・中学生、総計三百七十七名が参加し、真剣に訓練を行いました。

「避難訓練」

徒歩または自転車で、避難経路や避難に要する時間を確認しながら学校運動場に集合しました。なお、避難困難者(高齢で遠距離)の中には、

警察のパトカーで到着する方もありました。

「資機材取扱い及び救出・搬送訓練」

段ボール製簡易トイレや夜間照明用発電機等の使用方法、ロープ結索について習得。また、自動車用ジャッキ等を使用し、倒壊家屋から負傷者(人形)を救出、簡易担架で搬送する訓練を行いました。



倒壊家屋からの負傷者救出訓練

「応急処置訓練」

体育館で医師のトリアージ(重症度、緊急度等)に分類後、AEDを使用しての心肺



AEDを使用しての応急処置訓練

蘇生法、骨折箇所固定や出血の手当等の応急処置訓練を行いました。

「避難所運営訓練」

避難者への対応や避難所で起こるさまざまな出来事にどう対応していくかを図面上で模擬体験しました。

「炊き出し訓練」

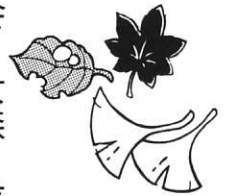
中学生も協力し、家庭科室で非常食(アルファ米の五目御飯)の炊き出し訓練を行い、カンパんとともに訓練参加者全員に配布しました。



非常食の炊き出し訓練

そのほか、「災害用伝言ダイヤル(一七一一)」、「地震による液化化実験」、「起震車による地震体験」等もあり大変好評でした。
南海地震は、今後三十年以内の発生確率が六十パーセント程度と想定されています。地震発生時には、地域住民が力を合わせ人命救助や出火防止等、迅速・的確な対応をしなければならぬと、改めて痛感した訓練でありました。今後さらに防災知識・技術の向上に努めていきたいと考えております。

爽やか眉山



新町コミュニティ協議会 大森 茂

眉山山頂へ登る一般的なコー

スは、阿波踊り会館より天神社横の石段を上り詰めると中腹の自動車道となり、ここより百メートル刻みの石標六百八十メートルをたどると山頂に至る、登り約三十分、下り二十分程度である。この山登りを毎日のごとく個人で、またグループで汗を流している人たちが大勢いる。健康への

信念、また自然

の中での憩いの場として私もその一人である。

きれいに落ち

葉が掃き清められ、夜露に湿つ



た石段が頂上への一歩として、

また天神社の神域として、すがすがしく感じられる。ときたま竹箒でこの石段を黙々と掃除している男性に感謝の声をかけるが、しかし何かの事情であろうか、いつのまにか落ち葉が自然のまま放置されて、日が経過するに従って流れてきた土が重なり、登山者が踏みしめるので階段が坂道のようになり、また、水分を含むと小虫が飛び回るので下りのときなど極めて危険であ

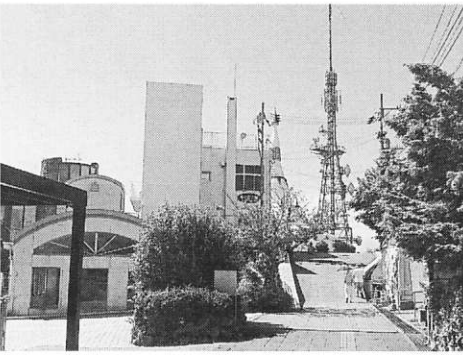
る。元気な観光客もときどき見かけるので大いに気にかかる。今まで何人かの清掃者の交代を見てきたが、個人での清掃にはやはり限界があるのだ、組織的な対策を考えるため環境衛生組合新町支部で取

とは、まことにありがたいことである。

また、「眉山かんぼの宿」下のドライブウエー直下の谷へ粗大ゴミが多量に廃棄されているのを県勤労者山岳連盟の若者が、毎年十二月第一日曜日に手作業で、またロープを使い、危険な傾斜を持ち上げている。私も毎年参加しているが二、三年はかかりそうである。

これらの隠れたところの奉仕活動をいかに継続するか、郷土愛の広がり期待したい。

市民の元気の源、癒しの山が美しく保たれ、登山者がいつでも爽やかな汗を拭う眉山であり続けたいものである。



り上げ、石段三百四十八段、一人当たり三十段で十一人、また竹箒も十一本、落ち葉かきも必要かと打合せ中に、ある日石段が掃き清められ新しい竹箒が石段の途中二カ所に三本位立てかけてある。見るに見かねて勇気あるお方が挑戦してくれたので、一応組合としては継続審議としたが、公共の場を美しく保つという日本人の清潔感、裏方としての達成感がここでも無名の方に引き継がれているこ



第21回 徳島市コミュニティまつり開催

日時 平成23年10月23日(日) 10:00~15:45頃
場所 渭北コミュニティセンター(北前川町2-7-3)他
内容 即売会 演芸発表会
カローリング 抽選会 など
グラウンドゴルフ



お問い合わせは、徳島市コミュニティ連絡協議会事務局(Tel621-5510)または渭北街づくり協議会(Tel652-7476)まで。

渭北の「学校と家庭・地域の連携」事業

	助任小学校	徳島中学校
4月	1 安全安心ステーション事業開始 (児童生徒の登下校パトロール) 2 地区子ども会の新体制づくり 3 わくわくクラブの企画(公民館)	1 地域連携企画チームの活動計画について話し合い (地域の人材、教育資源、活動計画)
5月	1 渭北地域ぐるみ青少年健全育成協議会総会 2 スポーツ少年団入団式 3 学校開放委員会(体育館、運動場) 4 青少年補導員学校訪問 5 公民館、コミセン見学(小3) 6 車いす等のバリア体験(小4) 7 助任川、興源寺川の調査(小5) 8 職業体験、仕事調べ(小6)	1 環境美化活動(学校周辺地域) 花壇の花植え(校内、フラワーロード) (町内会、地区婦人会と生徒合同) 2 青少年補導員学校訪問 3 徳中祭(運動の部)
6月	1 城山オリエンテーリング 2 街かど探検隊(小2) 3 安全安心避難訓練 4 下校訓練 5 わくわくクラブ活動開始	1 地域連携企画チーム(街づくり協、公民館、民生委、PTA)と学校生徒会役員との話し合い 2 職場体験学習(58事業所)
7月	1 民生委員学校訪問 2 学童保育七夕まつり 3 神社の夏祭り(郷土愛の育成) 4 蜂須賀墓所の清掃(伝統文化)	1 民生委員学校訪問 2 蜂須賀墓所の清掃(伝統文化) 3 資源ゴミ回収(アルミ缶) 毎月1回(ユニセフ募金へ) 4 人権問題意見発表会、人権集会
8月	1 お盆行事(伝統文化) 2 学校環境整備(支援ボランティア) 3 渭北体協まつり開催	1 お盆行事(伝統文化) 2 阿波おどり会場周辺清掃(奉仕活動) 3 阿波おどり駐車場として校庭開放 (渭北体協管理運営)
9月	1 敬老会参加(琴クラブ、金管クラブ、合唱クラブ出演、敬愛の手紙(1年)) 2 福祉施設訪問 3 学校公開授業、バザー(PTA) 4 みんなにやさしい町づくり調査(小4)	1 敬老会参加(オーケストラ部出演) 2 独居高齢者訪問と福祉学習 3 学校公開授業 4 徳中祭(表現の部、町民鑑賞)
10月	1 町民歩け歩け大会参加(体育の日) 2 神社の秋祭り(郷土愛と伝統文化) 3 まなびの町について見学や調査(小3) 4 学校運動会 (集団行動、体力向上、連帯感)	1 町民歩け歩け大会参加(体育の日) 2 環境美化(奉仕活動) 3 合唱コンクール
11月	1 町民文化祭に参加(合唱、琴、書画) 2 助任小チャレンジ大会 3 オープンスクール 4 人権教育学習 5 災害から町を守るための調査(小5)	1 町民文化祭参加(書画作品展示) 2 人権劇場 3 環境首都あどぶとエコスクール (助任川、吉野川の水質検査)
12月	1 環境美化活動(地域一斉清掃) 2 渭北地域ぐるみ健全育成講演会 3 「火の用心」親子見回り隊 4 渭北の歴史「徳島空襲を聞く」 5 学童保育クリスマス会	1 餅つき(民生委員と独居高齢者訪問) 2 環境美化活動(地域一斉清掃)
1月	1 昔の遊び指導(小1) (ペーゴマ、けん玉、竹馬、お手玉など 23名参加) 2 安全、避難訓練	1 防災訓練 2 交通マナー研修
2月	1 総合的な学習の時間について成果の発表 (3年以上) 2 金管バンド、合唱のスマイルメモリーコンサート	1 地域連携企画チームと生徒会役員との話し合い (活動の反省と次年度の計画)
3月	1 スポーツ少年団卒団式 2 わくわくクラブ閉講式 3 地区子ども会お別れ行事	1 環境整備(花壇) 2 郷土資料作成(職場体験学習用)

これからの「学校と地域コミュニティ」を考える

渭北街づくり協議会会長 岩丸 定

小学校では、今年から新しい学習指導要領による教育が展開されている(中学校は二十四年から)。子どもたちに「生きる力」を育てるべく「知・徳・体」の充実に、バランスを重視する教育を目指している。特に、体験学習が重視され、自然や環境なり地域社会とのかかわりの中で「生きる力」を身につけ、自信をもって将来に向かうことが期待されている。

変化の激しい社会に対応し、自ら考え、行動できる力を伸ばすために「総合的な学習の時間」が設けられている。

それぞれの学校の特色を生かし、創意工夫して学習意欲を高め、「探求的」な学習活動を進めるようである。

地域コミュニティは、学校が設定した教育目標に向かい、充実した学習活動が進められるよう、人材や教育資源を整備し、連携体制を整え支援しなければならぬ。渭北地区において、従来から積み重ねてきたもの、また、新しく企画したものなど、年間を通して実施しているものをまとめた。これからの渭北の教育プログラム設定の一助になればと思っている。

島田地区道路今昔



加茂名まちづくり協議会 会長 原田治郎

旧県道一号線は、蔵本元町一丁目（佐古三ツ合）を起点とし、蔵本元町三丁目と北島田町一丁目にかかる島田石橋を渡ると北島田町に入り、不動町（旧新居村）を通り、藍住町、板野町から大坂峠を越えて香川県引田町までの間を旧讃岐街道といわれていた。主要街道として通行が絶えず、中でも北島田町三丁目から鮎

喰川を渡り不動町に入ったすぐの脇にお不動さんがあり、春と秋との二回の縁日には夜店も多く並び、北は藍住町から南は佐古、蔵本から、行列のできるほどの通行人があった。現在は車が時々通るくらいで、本当に街道もさびしくなってしまった。街道には病院があり、神社もあり、お地蔵さんもあり、信者も多く、今でもお参りする人が絶えたことはない。

新県道一号線は、徳島大学薬学部前から、JR徳島本線の上を通り、島田に入る街道には、NTT徳島西局があり、市営住宅を越えて不動橋を渡り、香川県引田町まで続いている。中島田通りには、新県道と交差する交差点近くにはクリニックも建ち、医療を初め、健康対策のために多くの人が利用している。

職業訓練所）があり、多くの生徒さんが学び、にぎわっている。

今いちばん新しい道は、東西に延びる徳島一鴨島線である。大型のショッピングセンターもでき、一日中車の往来が絶えることなく、今や国道一九二号線より通行が多いのではないだろうか。島田地区は、北、中、南の三路線により昔から多くの家が建ち並び、その周辺には田畑が広がり、米作りや麦づくりに励む農家が多く、島田一帯は農村地区として発展した。

その島田地区の真ん中を、南北に新県道一号線と東西に徳島一鴨島線が十文字のように開通し、車社会の到来とともに、マンションを始めとし、個人住宅が増えて農業がやりにくくなったように思われている。

の加茂名地区の住民がこれらで働き、生活の糧として頑張っていることは、住民の一人として大変喜ばしいことだと思っている。

確かに新しい道路ができてなにかと便利になったが、その一方ではいまだに町界がわ

芸術村を目指して

文六コミュニティ協議会

会長 山橋 正和

古い館に暗い通路。玄関に入るなりパンフレットの山。壁面はドアといわず、所狭し

とポスターのオンパレード。入るなりゾツとしたのも二年前。これでは人は来られない。



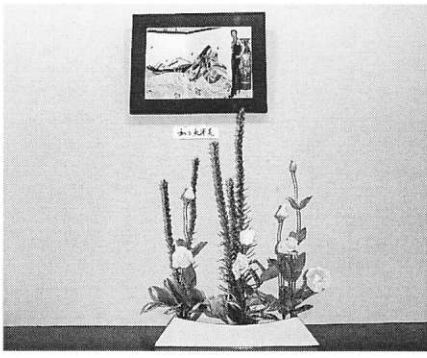
廊下の雑端を処分し、壁面を仕切っただけの粗末なコーナー、改良に対して無理解な言葉を浴びながら…。完成に一年の歳月！

◎芸術棚の完成

昨年やっと計画中の一つ、展示用芸術コーナーが完成。毎月展示内容に変化をもたし、俳句と写真のコラボレーション、押し花、墨絵、絵画、写真等により、全国の日展入賞作品、県展特選、博美展受賞作品等、優秀な作品が展示されるようになった。地域のコミセンとして、住民の優れた技能の持ち主がいかに多いことか、今更ながら驚かされた。

作品を飾ると、一変して陰鬱な廊下、コーナーに輝きを醸し出した。毎月テーマにより内容に変化をもたし、試行錯誤の变化球。

来館者も作品だけをのぞき



に訪れる者も増え、好評である。

◎芸術たまり場コーナー完成

ちよつとのぞいてみよう。リーダーの養成と定期的な集会の場の提供。コーヒーを飲みながら、お茶をすすりながら、金もかからず、月一回の集まり。合い言葉は持てる力を、技術を分かち合おう！



◎写真、コンピュータクラブ

の立ち上げ。埋もれた才能の発掘とリーダーの資質の養成。趣味だけにとどまらず輪を広げ、文化的で潤いのある町づくり他、踊り、花、絵画、伝承すべき伝統芸術等、幅広く芸術文化の発信基地にしよう。

おいらの村は芸術村！

桜間の神踊り

南井上コミュニティ協議会 長田 憲典

るものだけでも八十二カ所に及んでいたそうです。

この「神踊り」というのは、太鼓を打ち鳴らし、小歌を歌いながら、被り物を頭に付けて踊る風流踊りを総称して「神踊り」と呼んでいます。地区ごとに太鼓の打ち方や小歌の内容と歌い方、被り物、衣装等がそれぞれ異なっているのが特徴となっています。

桜間地区の「神踊り」については、神事として、集落の平和・安全・五穀豊穡を祈願し、子どもが太鼓、大人が鉦を打ちながら小歌に合わせて踊るもので、毎年八月十六日に実施され、そのときには地区外からの見物人も含め、大勢の人でにぎわったものです。

戦後、途絶えていた「神踊り」が、昭和二十七年、私が小学校六年生のときに久しぶりに復活され、出演させていただきました。その後八年ほど継続して行われましたが、小集落の桜間地区では人手が足りず、その後は実施が困難となりま

した。

平成元年度には、国のふるさと創成一億円の資金を活用して、徳島市が実施した「一地区一文化おこし事業」の中で、地元住民の強い要請もあって、南井上地区から「桜間の神踊り」が取り上げられ、三十年ぶりに復活したときには大いににぎわったものでした。

しかし、その後、二十年余りが経過した今日において、ますます少子高齢化が進む中で実施できる状況ではありません。

今後「桜間の神踊り」の伝承が危惧される中、私案ではありますが、この伝承については小集落の問題とせず、例えば南井上地域の事業として、コミュニティ協議会で取り上げ、検討していただければと思います。



シリーズ
名所・旧跡

弥勒寺（応神町東貞方）の

弁慶沓脱石

くつぬぎ
応神町コミュニティ協議会

源義経が一ノ谷の合戦で敗れた平家の拠点、讃岐の屋島を、背後から攻撃するため暴風の中、夜中に摂津の浜を船出して、一一八五（元暦二）年二月十七日明け方、現在の小松島市に上陸し、讃岐に向け阿波の地を駆けていったことは、歴史上有名で周知のとおりである。

阿波の各地には、義経や義経の忠臣で剛勇の僧であった弁慶にまつわる数多くの伝承、説話が伝えられている。

東貞方地区の弥勒寺にも弁慶ゆかりの石があるというところが、先人たちから語り継がれていた。

東貞方地区の佐藤博之家は、先祖から伝わる古文書の系図が大切に保管されている。



その中に、義経が平家追討のため讃岐に向かう途中、現在の吉野川を騎馬で渡るための案内を頼まれ、佐藤家の先祖の関の丞という人が、浅瀬の角々を瀬踏して先導し、難なく渡れたので、義経が角瀬川と名付けた。

その後、休憩のため弥勒寺

に案内したと記されている。そのとき、お供の弁慶が戦勝を祈願するため、沓を脱ごうとして石を踏むと、足の力で石に跡がついたので、弁慶の沓脱石として残されている。石の大きさは幅一メートル、奥行六十センチメートルで、その中央部に足跡模様のへこ

みがある。

これについては、「応神町郷土誌」と「義経阿讃を征く」（郷土誌家の田村直一先生著）にも記されている。

この沓脱石は、弥勒寺の地藏堂に安置されていたが、その後、裏庭に移され人目に触れることもなく、その存在を知る人も少なくなりつつあった。郷土を愛し、地域の史跡や文化遺産を後世に継承し、地域を発展させることは私たちの責務である。

弥勒寺では、住職と檀家が相談し、弁慶の沓脱石を前庭に安置し、檀信徒多数の方が出席し、厳かに開眼法会された。



編集後記

徳島城御殿庭園は戦国武将土田宗箇作庭の桃山式庭園です。その名石の半分は大神子石で動的で、それは、二億七千万年前海底に堆積していた泥土が、地核変動により圧縮されてきた徳島の名石です。

地球四十六億年の歴史からいうと新しい徳島ということになり、地震列島の一角を占めています。地震災害対策を考えなければならぬ由縁です。備えあれば憂いなし。入田地区の町民総出、微に入り細に入り総合計画がたてられ、活発な活動が行われた紹介は、他の範となるでしょう。

次代に生きる子どもたちを地域と学校の連携を密にし、計画をたて実践していく渭北の取組みに驚嘆させられます。

町の古道や由緒ある道を美化活用される加茂名や新町の活動に地域おこしの大切さが感じられました。

芸術文化おこしはコミセンからの息吹が丈六から吹いてきます。

応神の弁慶の沓脱石の現存と角瀬の渡りは貴重な義経弁慶物語です。ぜひ市民の宝として。

（佐藤義忠 記）